

明海地区住民対象県立特別支援学校誘致に係る説明会 要旨

日 時：令和5年8月20日（日）10：00～12：00

場 所：明海南小学校体育館

参加者：地域住民・保護者等 計 35 人

説明者：浦安市教育委員会 8 人

千葉県教育庁 5 人

- 次 第：1 教育委員会挨拶
2 県立特別支援学校の誘致について
3 質疑応答

<説明会>

- 1 挨拶 (1) 浦安市教育委員会 浦安市教育長より
(2) 千葉県教育庁 特別支援教育課長より
- 2 県立特別支援学校の誘致について ※詳細については、別紙資料を参照のこと。

(1) 浦安市からの説明

- 「県立特別支援学校誘致に係る市の取組と本市に開校する意義」
 - ・特別支援学校設置要望の変遷や解決したい課題と開校する意義など
- 「本市に必要な特別支援学校の規模について」
 - ・本市に誘致する特別支援学校に必要な教室など
- 「誘致可能施設の検証と誘致の方向性、最有力候補施設の決定について」
 - ・誘致のために検証すべき必要条件や誘致施設候補選定の基本的な考え方など
- 「明海中学校・明海南小学校の教育活動と県立特別支援学校との関わりについて」
 - ・今後のスケジュールや小中連携教育の一層の促進など

(2) 千葉県からの説明

- 「第3次千葉県特別支援教育推進基本計画」
- 「第3次県立特別支援学校整備計画について」
 - ・県立市川特別支援学校の過密状況の対応や県立船橋特別支援学校及び県立船橋夏見特別支援学校の長時間通学への対応など
- 「(仮称) 千葉県立葛南地区特別支援学校の設置に至った経緯」
- 「(仮称) 千葉県立葛南地区特別支援学校の概要」
 - ・対応障がい種（知的障がい・肢体不自由）や学校規模（児童生徒数 100 人程度）、開校年度（令和9年度開校を予定）など
- 「小中学校との併設による特別支援学校について」
 - ・児童生徒同士が共生社会の一員として社会の構築の基礎を培う教育の実現など
- 「開校までのスケジュールについて」

3 質疑応答 (参加者…地域住民・保護者等 県…千葉県 市…浦安市)

【誘致施設の検討について】

(参加者) 市内には県立高校として浦安高校と浦安南高校がありこれらの施設の検討はされなかったのか。また、特別支援学校の高等部についてはどのような検討がされているのか。

(県) 県立特別支援学校を設置するにあたっては、安全面の配慮やスクールバスの動線等、いろいろな観点から検証を行った。その上で、県立高校を活用した設置が可能かどうか検討し、現状としては、難しいという判断に至り、明海南小学校・明海中学校を活用することとした。

高等部設置については、県教育委員会としても、その必要性は認識しており、今後も引き続き検討・協議をしながら進めていくこととなる。

(参加者) 現在いる子供たちに影響があるところにわざわざ誘致するのではなく、旧入船北小（まちづくり活動プラザ）を使用することは検討しなかったのか。

(市) その施設についてももちろん検討はしているが、設置に当たって想定している教室数を用意できないことが一つ、また、現在のまちづくり活動プラザの使用期限を待ってからの検討・設計となると、かなり先になってしまうというスケジュールの関係から、この施設は候補にならなかった。

(参加者) 今いる子供たちにとってデメリットがない方がよいと考えている。明海南小学校裏の空き地については検討されたり現在使用が決まったりしているのか。また、そこに児童育成クラブを作ることにはできないのか。

(市) グランファースト隣の土地のことだと思うが、その土地についての使用は検討していないし決まっていない。また、児童育成クラブの建設地としては、令和7年度より使用しなければならず、スケジュールの都合上検討には至らなかった。

(参加者) 今予定されている児童育成クラブの建設地は、中学校の校庭の一部となっている。校庭をつぶしてしまうより、体育館の北側の駐車場を例の空き地に移し、空いた駐車場のところに児童育成クラブを作ればよいのではないか。

(市) 今計画している場所は、広い中学校の校庭の中でも一部分けられた場所であり設置できるものと考えている。いただいたご意見も参考にさせてもらう。

(参加者) 今回の誘致について、工事期間がありそれに伴う移転等もあると考えると、現在いる児童生徒にとっては大きな負担であると考えている。今いる児童生徒への影響を本当に考えていたのか教えてほしい。

(市) 確かに、明海南小学校の工事となると負担を与えてしまう部分はあると思う。ただし、工事による騒音等は最小限にしたいと考えている。また、小中学校が一緒になることによって、今までできたことができなくなるということはないようにしていきたいと考えている。

【今後の説明について】

(参加者) 前回の説明では、子供たちには負担をかけないという説明がなされ、工事についても住民に対して同意を得て行っていきたいという説明を受けたが、その点についてはどのような見解か。

(市) 前回の説明では、同意を得るといふより、ご理解を得ながらという意味合いで説明させていただいた。

(参加者) 来年度入学予定だが、これから入学する予定の保護者には説明があるのか。

(市) 学校で予定されている就学時健康診断の際に概要を説明させていただく予定である。また、現在児童生徒がいる保護者の方々に対しても細かく説明できるよう、学校と協議して計画していきたい。

【児童生徒数について】

(参加者) 少子高齢化の中で、特別支援学校に通う児童生徒数が右肩上がりに増加している理由は何なのか。

(県) これという理由を挙げることは難しいが、全県・全国的に特別支援学校で行う専門性に基づいた教育を必要としている児童生徒、また、それを望む保護者が増えているという実情がある。それに伴い、想定を上回る児童生徒数の増加が見られる。

(市) かつてより、保護者の中で特別支援学校に対する垣根が低くなっているという現状があると考えている。浦安市については、全26校ある小中学校のうち、25校に特別支援学級を設置している。このことが、特別支援教育の理解を深めていると考えられ、特別支援学校を選ばれるご家庭も増えていると思われる。

(参加者) 現在、近隣のマンションでも入れ替えが進んでいて子供たちの数が増えていると思う。児童数への対応についてはどのように考えているのか。

(市) 今後の予想を踏まえても、現施設で飲み込めると考えている。万が一、こちらの予想以上の増加が見られた場合は、しっかりと協議し対応することになる。

【スクールバスについて】

(参加者) 特別支援学校の誘致理由の一つとして、スクールバスによる長時間の通学時間と保護者送迎の負担を挙げているが、市としてバスの増便を行うなどの支援は行ってきたのか。

(市) スクールバスの増便については、県に対して要望を出しており、市川特別支援学校については増便がなされているところである。児童生徒の状況によっては、保護者自身による送迎をしなければならないという実情があり、市としてはそれらの状況を解消したいという思いがある。

【施設の使用方法について】

(参加者) 校庭や体育館の使用について、時間などをしっかりと考えているのか。また、施設の様子について前回の説明でも同じようなことを言っていたが、詳しいことは言えないのか。

(市) 各クラスが使用する時間数などを計算して実施が可能と考えている。また、施設内容についてはこちらの案はあるが、それが実際に可能かどうかは、これから関係者と協議していくことになる。

(参加者) 中学校には定期試験がある。そのように中学校と小学校では生活時間が異なる部分もあるが、中学校側の校舎の利用については決まっていることがあるのか。

(市) 定期試験に支障がないように、小学校と中学校で協議の上、配慮していきたい。

【その他の意見等】

(参加者) 「共生社会」ということがうたわれているが、そのようなことを望む人たちにとっては確かによいものであり進めていかなければならないことだが、それを望まない人や関心のない人にとっては負担と捉える人もいるということを理解しておいてほしい。

(参加者) 国連の勧告では、インクルーシブ教育としてみんな同じところで教育を行うということを言っている。また、市としては特別支援学級の整備を進めている中で、あえて特別支援学校を誘致するという、インクルーシブ教育の観点から逆行している政策を推進しているように感じる。地域に理解を求めらるなら、両者とも win-win でなければならない。地域に対して負担だけを強いるようなことがないようにしていただきたい。

(市) 特別支援学校の設置がインクルーシブ教育に逆行しているという捉えではなく、むしろ進めているという感覚である。何らかの理由で特別支援学校を選べなかった子供たちの選択の幅を広げ、なおかつ地域の中でみんなが育つということを考えている。

(教育長) むしろインクルーシブ教育の最先端を行こうとしている。最近では、全国的に見ても特別支援教育と通常教育を一体的に進めていこうという機運が高まっている。本市では特別支援学級の整備を進めてきたが、より専門性の高い特別支援学校を選びたいと考えるご家庭もある。そのようなニーズに応えるものである。また、確かに現在いる子供たちには一部負担をかけてしまうかもしれないが、そのような負担をなるべくかけないように計画しながら進めていくのでご理解をいただきたい。これからの子供たちの未来を考えて実施していることなので重ねてご理解をいただきたい。

(参加者) 明海中学校、明海南小学校以外の学校に通うことはできるのか。

(市) 市立小中学校においては、学校ごとに通学区域が決まっているが、家庭の都合等により、他の学校に通いたい場合は、浦安市教育委員会学務課において就学相談を実施しているのでそちらに相談してほしい。

(参加者) 障がい児の保護者にとって、今回の特別支援学校の誘致は歓迎されることだと思う。選べる学校が増えたという点においてとてもよい試みだ。一方、「共生社会」「インクルーシブ教育」といってもイメージがわからない人がほとんどではないだろうか。子供たちが交流している動画や感想を紹介するなどして、わかりやすく説明する必要があると思う。

(参加者) 明海中学校・明海南小学校の開校の時から関わっていた当時、特別支援学級に通っている保護者の方々から大変ご苦労されている話を聞いていた。健常児の保護者には、なかなかわからない苦労があって、特別支援学級に通っている保護者の方々の意見が反映されなかったり、特別支援学校の誘致についてもなかなか進まなかったりという話があった。そのような経緯を知っている身として、今回の誘致の話を聞いてこれを逃してはならないという思いを持っている。

これからの議論の中では、障がいのあるなしに関わらずあらゆる立場の保護者を交えて新たな学校づくりの議論を行ってほしい。私も、何人かの方に積極的に進めていけるよう言葉をもらってきている。これからの学校として、健常児であれ障がい児であれ、どの子にとってもよい学校として行ってほしい。

(参加者) 浦安市は、ここまで本当によいインクルーシブ教育を進めてきていると思う。特別支援学校が加わることで選択肢が広がり、子育てのしやすい環境を作っていくことになる。そして、このようなことを私たち住民が自ら行うことによって、よりよい街づくりにつなげることができるかと確信している。行政の方々もそこに向かって邁進してほしいし、今回意見で出てきた不安と思われる部分については、はっきりできるように情報開示してほしい。